

Namaste! インドに来て3か月、活動先に赴任して2か月がたちました。活動先のアルワチンインターナショナルスクールは、幼稚部から高等部まで約1200人が学ぶ私立の学校です。小学校1年生から第3言語が必須になっており、全校で180人弱が日本語を選択しています。元気な生徒たちや、指導熱心な先生方と、刺激的な毎日を送っています。



【日本語の先生方と】

生徒は本当にパワフルで、質問する前から手をあげて圧倒させてくれます。そんな生徒に囲まれて、私も元気いっぱい…といたいところなのですが、3か月目になったあたりから、じんましん（毎日パパイヤを半分食べていたから？）が続き、どうも体調がすぐれません。昨日、何気なく、協力隊訓練所での講義のプリントを見ていたら、『カルチャーショックの特徴』として、「アレルギー症状」とあったので驚きました。「健康状態を気にする」とも…。これ、今の私でした。おそらく、カルチャーショックの一部なのでしょう！



【私のアレルギー？パパイヤ。1個70円ぐらい。】

さて、前置きが長くなりましたが、今回は、「インドのイ」、衣食住の衣、とくに、働く女性の服装について、お伝えしたいと思います。私が見た限りでは、西洋的な装いの女性は少数派で、多くは民族衣装で仕事をしています。

活動先の学校に赴任して、まず驚いたことの1つに、同僚の服装がありました。女性の教師が多い学校なのですが、皆色鮮やかなサリーで教壇に立っています。後で知ったので

すが、本校には、週に 3 回「サリーの日」があり、女性職員のサリー着用が義務付けられているのでした。「教師になる前は、サリーの着方も知らなかった。この職についてから覚えましたが」と話す先生がいました。日本の着物と通じるものがある気がします。「サリーを着るのに、10 分ぐらいかかるので、サリーの日の朝は大変です」と、そっと打ち明けてくれた先生もいます。でも、そのような先生方の目に見えない努力があつて、生徒たちは、自然とインドの伝統に触れることができているのだな、と思います。



【サリー姿の理科の先生】

サリー以外で、インド女性の一般的な服装といえば、スーツです。インドのスーツとは、クルタ（ワンピース）、デュパタ（ストール）、チューリダー（細身のズボン）／サルワール（ゆったりしたズボン）の 3 点セットを指し、スーツ姿で仕事場にむかう女性は、メトロなどでもよく目にします。私も専らこれを身に着けて生活しているのですが、私が単品で購入したものを適当に組み合わせているのに対し、インドの女性の 3 点は、色合いや柄がいつでもぴったりマッチしているのが不思議でした。疑問に思って聞いてみると、3 点をセットで購入し、ミックスして着ることはほぼないということです！



【スーツ姿の日本語の先生】

これについて、ある同僚から聞いた印象的な話があります。教師として働き始めたばかりのころ、既製品のクルタやデュパタを着まわしていたら、先輩の先生に「いつまでも学生みたいな服装をするのはやめなさい」と注意され、それがテーラーでオーダーメイドのスーツをあつらえるきっかけになったとのことでした。スーツ 3 点セットは、既制服の店でもよく見かけますが、やはり仕立ててもらうのが王道のようです。

インドでは、オーダーメイドが深く浸透していて、街角のテーラーに行くと、手ごろな値段でサイズぴったりの服をあつらえてもらうことができます。先日、私も初めて、同僚に連れて行ってもらいました。私が仕立ててもらうのは、サリーの下に着るブラウスです。最近、インド生活の記念にと、サリーを購入してみたのでした。テーブルクロスのような 1 枚の布を前にして、これが服になるのか、と改めてびっくりです。すてきに着こなしているインド人女性には及ばないにしても、せめて一人で着られるようになればな、と願っているところです。同時に、日本の伝統的な衣装である着物のことも、もっと知って日常的に身に着けられるようになりたいとも思い始めました。



【テーラーでのサイズ計測。5分もかかりませんでした】

インドの服は本当に魅力的で、語りつくせません。活動期間中に、また別の観点から、お話しできたらと思います。そして、衣服以外にも、日々の生活で、お伝えしたいことが山ほどあるのですが…それはまた次の機会に。今回も読んでいただき、ありがとうございます！